

生の都留 文大の故郷

16

私の生まれた所は、福島県の西郷村です。新幹線の駅と高速道路I・Cを合わせ持ち、首都圏とのアクセス網の充実による企業進出が相次ぎ、人口も増加し続けていますが、まだまだ自然の豊かなところですよ。

小さいころはいつも外で遊んでいて、家の中で遊んだ記憶がほとんどありません。近くの山へ登って探検したり、夏には川で泳いだりしていました。しかし、不満なところというか不便なこともあって、家のまわりには小さな商店一軒しかなくて、ちよつと買い物に行くのにも隣の市まで行かなければ

ならないし、バスも一日に三、四本しかないの、高校も七キロの道のりを自転車通学していました。冬の帰り道、上り坂で向かい風、しかも雪のときなどはもう泣きそうでした。でも、それが当たり前だったの、別にいやだと思ふこともそんなにありませんでした。

ですから、この都留市に来たときの感想はみんな田舎だとか言うけれど、徒歩で用事がほとんど済ませられるし、駅も近くにあるし（高いけど）、すごく便利だと思いました。それは都留市の中心部のあたりに住んでいるからかもしれ

ません。もう少しで二年がたつけれど、自分の住んでいるあたり以外はまだよくわからないですから、この都留市に自分のお気に入りの場所を見つけたと思います。

それと、こつちへ来てから感じたのは言葉の違いです。私のところはまさに東北弁といった感じなのです。はじめは自分がなまってるなんて知らなくて、知ってからそれを必死になって隠そうとして、もうしゃべるのも緊張していました。でも最近では、なまってるのが悪い！そんなの笑う方がおかしい！と開き直って、ほとんど隠すとか意識しなくなりました。

私は好きだし、消えていってしまふのがいやだからです。

そういえば、私がこの都留市に来たのも偶然だと思えます。本当は地元大学のみを希望していたのですが、センター試験が終わった後に公立でC日程で教育系の大学があるのを発見して、先生に願

書をもらって受けたら受かってしまいました。それまで山梨県は行ったこともなくて、どこにあるかもよく分からず、お母さんと地図帳を見たくらいです（恥ずかしい）。しかも、都留市も知らなくて『とるし』と読んでいました。今となっては笑えますね。あの日偶然に見つけていなければここへは来なかったし、きつと都留市もずつと知らなかったと思うと、なんだか不思議な気持ちです。

それでは、私の正直な都留市についての気持ちを述べてみたいと思います（あくまで私の意見です）。

好きなところ—部屋の窓から天氣の良い日には富士山が見える（感動—）。近くに図書館がある。雪があまり降らない。いい人がたくさんいる。東京へすぐに行ける。BS放送を見ることが出来る。その他いろいろ…

嫌いなところ—山が高くて、と

じこめられているような感じがする。車の運転マナーが少し悪い。電車が高い。夏暑すぎる。

…とこんな感じですが怒らないうでください。みなさんはどこが好きで、どこが嫌いですか？なんだか自分の思っていることをまともにもなく書きつらねてしまったような気がしますが、かなり自信がないです。

あと二年ここに住んで、就職先があれば福島へ戻ると思いますが、それまでここでの生活を楽しまたいと思います。

『都留に来て故郷を思う』

初等教育学科2年 鈴木智恵



自然がいっぱいの西郷村